

14時30分解禁

平成29年7月 全国百貨店売上高概況

平成29年8月21日

I. 概況

1. 売上高総額	5,469億円余
2. 前年同月比	-1.4% (店舗数調整後/2か月ぶりマイナス)
3. 調査対象百貨店	80社 229店 (平成29年6月対比±0店)
4. 総店舗面積	5,733,945㎡ (前年同月比:-3.9%)
5. 総従業員数	72,454人 (前年同月比:-4.6%)
6. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	12-2月 -1.5%、1-3月 -1.2%、2-4月 -0.6%、 3-5月 -0.1%、4-6月 0.7%、5-7月 -0.1%

[参考] 平成28年7月の売上高増減率は-0.1% (店舗数調整後)

【特徴】

7月の売上高は1.4%減と2か月ぶりにマイナスとなった。

株高の資産効果で富裕層の高額消費が活況であった他、インバウンドも高い伸びを維持したものの、大半の会員店が夏のセールを6月末に前倒しした影響などから、当月はセールの主力となる衣料品(5.0%減)を中心に苦戦し、前年実績には若干届かなかった。

顧客別では、国内市場(シェア95.8%)がマイナス(2.9%減)に転じた一方、インバウンド(シェア4.2%)は売上(227億円/54.9%増)・客数(35.7万人/32.2%増)共に過去最高を更新した。

地区別では、大都市(10都市)は、インバウンド効果の高い札幌(0.7%増)・大阪(5.0%増)、7月にセールを開始した仙台(0.8%増)の3都市が前年をクリアしたが、10都市合計では0.3%減と僅かに届かず5か月ぶりのマイナスとなった。一方、地方(10都市以外の地区)は、全8地区で前年割れし(合計3.8%減)3か月連続のマイナスとなった。

商品別では、主要5品目のうち、高級輸入時計や宝飾品等の高額商材(美術・宝飾・貴金属:3.4%増)と化粧品(16.4%増)が牽引する形で、雑貨が6.8%増と8か月連続でプラスした他、猛暑の影響でUV対策アイテム(帽子・日傘・サングラス等)など一部季節商材に動きが見られた。その他は、セール前倒しの影響で身のまわり品が2か月ぶりにマイナスに転じた他、家庭用品(2.0%減)、食料品(2.0%減)もマイナスとなった。

中元商戦は、ネット受注の伸長が店頭の減少を下支えし、6月と7月の通期売上ではほぼ前年並みに推移した。7月のプレミアムフライデーは、更なる市場認知の向上を図るべく、引き続き各店において「食・美・健康」をメインテーマに各種催事が企画展開された。

【要因】

(1) 天候：気象庁発表「7月の天候」の特徴は以下のとおり(一部抜粋)

◇北・西日本では気温がかなり高く、北日本太平洋側では晴れる日が多かったため、日照時間がかなり多かった。

また、梅雨前線の活動が活発になった時期があったため、局地的に大雨となり「平成29年7月九州北部豪雨」が発生するなど、各地で河川の氾濫や土砂災害などが発生した。

(2) 営業日数増減 31.0日(前年同月比 ±0日)

(3) 土・日・祝日の合計 11日(〃 ±0日)

(4) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数130店舗)

①増加した:29店、②変化なし:38店、③減少した:63店

(5) 7月歳時記(クリアランス、夏休み)の売上(同上/有効回答数93店舗)

①増加した:10店、②変化なし:48店、③減少した:35店

全国百貨店 売上高速報 2017年07月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	546,974,360	100.0	-1.4 (-2.3)
10都市	380,519,447	69.6	-0.3 (-0.5)
札幌	13,669,187	2.5	0.7
仙台	7,586,592	1.4	0.8 (-5.9)
東京	146,954,142	26.9	-0.9
横浜	32,029,997	5.9	-1.6
名古屋	34,839,192	6.4	-4.8
京都	21,996,370	4.0	-2.3
大阪	76,755,224	14.0	5.0
神戸	14,475,029	2.6	-2.0
広島	12,522,274	2.3	-3.4
福岡	19,691,440	3.6	-1.0
10都市以外の地区	166,454,913	30.4	-3.8 (-6.3)
北海道	1,560,258	0.3	-4.8 (-43.9)
東北	7,710,241	1.4	-3.5
関東	73,357,817	13.4	-2.3 (-6.6)
中部	12,686,846	2.3	-5.0
近畿	22,482,811	4.1	-5.7
中国	11,996,827	2.2	-3.6
四国	9,126,543	1.7	-4.7
九州	27,533,570	5.0	-5.2

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	546,974,360	100.0	-1.4 (-2.3)
紳士服・洋品	33,650,287	6.2	-2.1 (-3.0)
婦人服・洋品	106,102,842	19.4	-6.1 (-7.0)
子供服・洋品	10,658,433	1.9	-5.4 (-6.1)
その他衣料品	12,841,132	2.3	-3.2 (-4.4)
衣 料 品	163,252,694	29.8	-5.0 (-5.9)
身のまわり品	72,277,075	13.2	-0.8 (-1.8)
化粧品	42,007,544	7.7	16.4 (15.5)
美術・宝飾・貴金属	31,126,073	5.7	3.4 (2.2)
その他雑貨	18,379,428	3.4	-5.8 (-6.7)
雑 貨	91,513,045	16.7	6.8 (5.8)
家 具	5,967,579	1.1	1.7 (0.8)
家 電	1,216,260	0.2	-8.3 (-8.4)
その他家庭用品	15,818,790	2.9	-2.8 (-3.7)
家 庭 用 品	23,002,629	4.2	-2.0 (-2.8)
生 鮮 食 品	31,923,316	5.8	-2.8 (-3.8)
菓 子	41,438,463	7.6	-1.0 (-1.9)
惣 菜	31,931,660	5.8	-1.8 (-2.4)
その他食料品	60,349,797	11.0	-2.3 (-3.2)
食 料 品	165,643,236	30.3	-2.0 (-2.8)
食 堂 喫 茶	15,324,867	2.8	-1.8 (-2.7)
サ ー ビ ス	5,109,167	0.9	-4.6 (-6.7)
そ の 他	10,851,647	2.0	0.2 (-0.3)
商 品 券	19,932,364	3.6	-5.1 (-5.7)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | -0.3% (店舗数調整後/5か月ぶりマイナス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | -3.8% (店舗数調整後/3か月連続マイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	-0.3	-0.2	5か月ぶりマイナス
札幌	0.7	0.0	7か月連続プラス
仙台	0.8	0.0	2か月連続プラス
東京	-0.9	-0.2	2か月ぶりマイナス
横浜	-1.6	-0.1	4か月ぶりマイナス
名古屋	-4.8	-0.3	2か月ぶりマイナス
京都	-2.3	-0.1	2か月ぶりマイナス
大阪	5.0	0.7	7か月連続プラス
神戸	-2.0	-0.1	3か月連続マイナス
広島	-3.4	-0.1	10か月連続マイナス
福岡	-1.0	0.0	4か月ぶりマイナス
10都市以外の地区	-3.8	-1.2	3か月連続マイナス
北海道	-4.8	0.0	10か月連続マイナス*
東北	-3.5	-0.1	2か月ぶりマイナス*
関東	-2.3	-0.3	2か月ぶりマイナス
中部	-5.0	-0.1	2か月連続マイナス
近畿	-5.7	-0.2	5か月連続マイナス
中国	-3.6	-0.1	3か月連続マイナス*
四国	-4.7	-0.1	3か月連続マイナス
九州	-5.2	-0.3	2か月連続マイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が8か月連続のプラスとなった。また、衣料品が21か月連続、家庭用品が19か月連続、食料品が2か月連続、身のまわり品が2か月ぶりのマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が28か月連続、美術・宝飾・貴金属が4か月連続、家具が2か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-1.4	—	2か月ぶりマイナス
紳士服・洋品	-2.1	-0.1	12か月連続マイナス
婦人服・洋品	-6.1	-1.2	21か月連続マイナス
子供服・洋品	-5.4	-0.1	2か月ぶりマイナス
その他衣料品	-3.2	-0.1	21か月連続マイナス
衣料品	-5.0	-1.6	21か月連続マイナス
身のまわり品	-0.8	-0.1	2か月ぶりマイナス
化粧品	16.4	1.1	28か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	3.4	0.2	4か月連続プラス*
その他雑貨	-5.8	-0.2	3か月連続マイナス*
雑貨	6.8	1.0	8か月連続プラス
家具	1.7	0.0	2か月ぶりプラス
家電	-8.3	0.0	2か月ぶりマイナス
その他家庭用品	-2.8	-0.1	16か月連続マイナス
家庭用品	-2.0	-0.1	19か月連続マイナス
生鮮食品	-2.8	-0.2	40か月連続マイナス*
菓子	-1.0	-0.1	5か月ぶりマイナス*
惣菜	-1.8	-0.1	4か月ぶりマイナス*
その他食料品	-2.3	-0.3	5か月連続マイナス*
食料品	-2.0	-0.6	2か月連続マイナス
食堂喫茶	-1.8	0.0	3か月連続マイナス
サービス	-4.6	0.0	3か月ぶりマイナス
その他	0.2	0.0	3か月連続プラス
商品券	-5.1	-0.2	77か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

平成29年7月 東京地区百貨店売上高概況

平成29年8月21日

I. 概 況

1. 売上高総額	1,469億円余
2. 前年同月比	-0.9% (2か月ぶりマイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-0.2%(90.9%) : 非店頭-7.3%(9.1%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成29年6月対比±0店)
5. 総店舗面積	847,497㎡ (前年同月比:-4.0%)
6. 総従業員数	18,387人 (前年同月比:-3.5%)
7. 3か月移動平均値	12-2月 -1.7%、1-3月 -1.5%、2-4月 -1.3%、 3-5月 -0.7%、4-6月 -0.2%、5-7月 -0.3%

[参考] 平成28年7月の売上高増減率は0.6%

【特 徴】

- (1) 東京地区の入店客数は0.5%減とマイナスに転じた。夏のクリアランスセールを6月末に前倒した影響を受ける中、集客・販促策が奏功し前年を越える店舗もあったが、地区全体としては前年実績には僅かに届かなかった。
- (2) 入店客数の減少を受けて、当月はデイリー商材の食料品(1.8%減)も3か月ぶりにマイナスとなった。特に、不漁不作による価格高騰などから、生鮮食品の需要が盛り上がり、売上を押下げる要因となった。
- (3) 東京地区は富裕層とインバウンドの市場規模が大きく、都内各店でラグジュアリーブランドや宝飾時計など高額品(美術・宝飾・貴金属:6.1%増)や化粧品(18.9%増)は極めて活況に推移した。これらを含む雑貨の合計では7.9%増と、全国水準を1.1ポイント上回った。
- (4) 夏休みに合わせた各種施策では、人気キャラクターを使ったファミリー対象企画、趣味性・嗜好性の高いマニア向けイベントの他、人気作家の展示会などが展開され、いずれも連日行列ができるほど盛況で、集客や売上増に一定の貢献をした。
- (5) 8月中間段階の商況は、5.3%増(8/16)で推移している。

【要 因】

- (1) 営業日数増減 31.0日(前年同月比 ±0.0日)
- (2) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数19店舗)
①増加した:5店、②変化なし:8店、③減少した:6店
- (3) 7月歳時記(クリアランス、夏休み)の売上(同上/有効回答数12店舗)
①増加した:2店、②変化なし:8店、③減少した:2店

東京地区百貨店 売上高速報 2017年07月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%)
総 額	146,954,142	100.0	-0.9
紳士服・洋品	11,563,453	7.9	-1.0
婦人服・洋品	25,968,921	17.7	-6.4
子供服・洋品	2,402,562	1.6	-1.5
その他衣料品	3,026,322	2.1	-2.0
衣 料 品	42,961,258	29.2	-4.4
身のまわり品	21,578,814	14.7	-1.4
化粧品	12,872,727	8.8	18.9
美術・宝飾・貴金属	9,340,022	6.4	6.1
その他雑貨	5,619,388	3.8	-8.7
雑 貨	27,832,137	18.9	7.9
家 具	1,719,674	1.2	5.2
家 電	826,875	0.6	16.3
その他家庭用品	4,061,480	2.8	-6.3
家 庭 用 品	6,608,029	4.5	-1.1
生 鮮 食 品	5,782,225	3.9	-3.0
菓 子	10,450,121	7.1	-1.4
惣 菜	7,554,811	5.1	-2.1
その他食料品	14,401,010	9.8	-1.5
食 料 品	38,188,167	26.0	-1.8
食 堂 喫 茶	3,568,775	2.4	-1.5
サ ー ビ ス	2,134,773	1.5	-8.1
そ の 他	4,082,189	2.8	-1.0

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

商 品 券	3,871,221 千円	-4.4
従 業 員 数	18,387 人	-3.5
店 舗 面 積	847,497 m ²	-4.0

営 業 日 数	31.0 日	前年	31.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が8か月連続のプラスとなった。また、衣料品が21か月連続、身のまわり品が12か月連続、家庭用品が11か月連続、食料品が3か月ぶりのマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が28か月連続、美術・宝飾・貴金属が3か月連続、家電が2か月連続、家具が7か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-0.9	—	2か月ぶりマイナス
紳士服・洋品	-1.0	-0.1	6か月連続マイナス
婦人服・洋品	-6.4	-1.2	21か月連続マイナス
子供服・洋品	-1.5	0.0	5か月ぶりマイナス
その他衣料品	-2.0	0.0	3か月連続マイナス
衣料品	-4.4	-1.3	21か月連続マイナス
身のまわり品	-1.4	-0.2	12か月連続マイナス
化粧品	18.9	1.4	28か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	6.1	0.4	3か月連続プラス*
その他雑貨	-8.7	-0.4	3か月連続マイナス*
雑貨	7.9	1.4	8か月連続プラス
家具	5.2	0.1	7か月ぶりプラス
家電	16.3	0.1	2か月連続プラス
その他家庭用品	-6.3	-0.2	4か月連続マイナス
家庭用品	-1.1	0.0	11か月連続マイナス
生鮮食品	-3.0	-0.1	17か月連続マイナス*
菓子	-1.4	-0.1	3か月ぶりマイナス*
惣菜	-2.1	-0.1	13か月連続マイナス*
その他食料品	-1.5	-0.1	4か月ぶりマイナス*
食料品	-1.8	-0.5	3か月ぶりマイナス
食堂喫茶	-1.5	0.0	6か月連続マイナス
サービス	-8.1	-0.1	3か月ぶりマイナス
その他	-1.0	0.0	8か月ぶりマイナス
商品券	-4.4	-0.1	6か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・橘・長柴 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>